

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

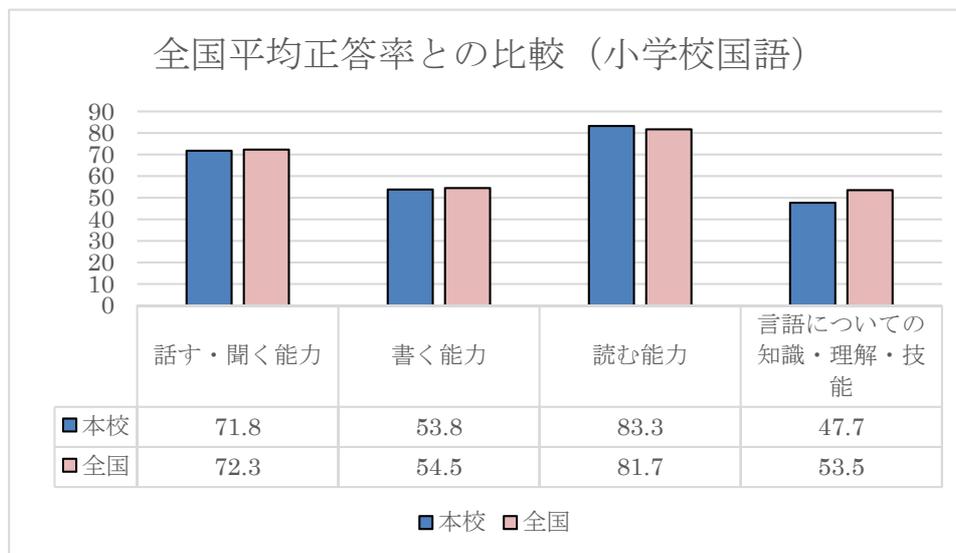
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



4領域のうち言語面で低かったこと以外には、ほぼ全国平均と同レベルにある。特に読む領域に関しては、全国平均を上回っている。児童の回答の様子を見てみると、無解答率も低く、問題文をしっかりと読んで、回答に答えようとしている様子が伺える。言語面では、漢字を適切に使う力が弱かった。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域で根幹をなす言葉の力であり、この言葉の力を使いこなすことができていないことが課題です。このような「語彙」や「文や文章」にかかわる言葉の力を育むためにも、国語科の授業に関わらず、漢字の学習や文や文章に関する学習で身に付けたことを使いこなす場として、表現させる活動に取り組む必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

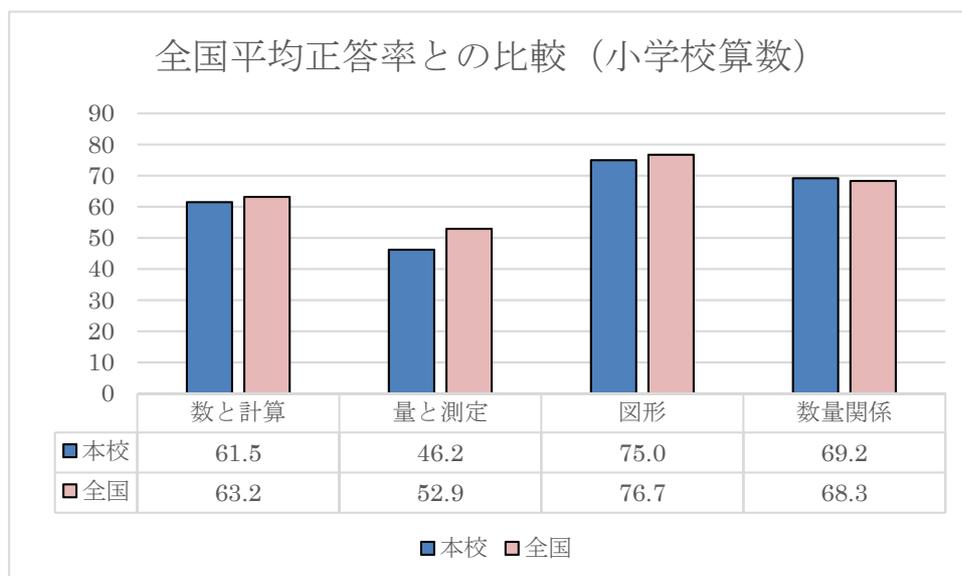
- 文章の意味を考えながら適切な漢字を使う（書く活動に取り組みさせる）場面を、作文単元、日記、授業の振り返りなどで取り組んでいきます。
- 問題文をじっくり読み、最後まで課題に取り組む姿勢を作っていきます。また、自分の考えを交流させることで、より深い理解ができるように授業を工夫します。
- 読む力を伸ばすために、文章のキーワードを見つけたり、全体をまとめたりする活動にこれまで以上に取り組みます。
- 聞く・話す活動において、主語や述語のつながりを意識し、順序立てて話す経験を積ませていくようにします。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげてください。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、共感したり、根拠を尋ねたりして、お互いの考えを交流してください。

2 算数

(1) 結果



全体の正答率は2ポイントほど低く、特に落ち込んでいるということはない。ただ、領域で見ると、「量と測定」領域が全国と比べ6ポイントほど低く、今後の指導を考える必要がある。また、観点別に見ると「技能」や「知識・理解」は大きな差はなく、むしろ県や全国を上回っているが、「考え方」の面で3ポイントほど低くなっており課題となっている。

(2) 成果と課題

解答の傾向を見てみると、記述面において、問題文にあるの解答例を参考にして記述できる児童が多くいました。題意に即して式とことばを使って説明できる児童は増えてきており、スキルBを繰り返すことで、記述の型を学ぶことができています。

知識理解面で算数用語の意味が理解できていないことで誤答につながっているようです。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 調査の結果を受け、児童には、基礎的・基本的な知識・技能を付けること、考えたことを表現する力を付けることが課題です。そこで、朝のスキルタイムA Bにより、基礎・基本の定着を図るとともに、記述式の問題に繰り返し学習に取り組んでいきます。
- 図や数直線、式、言葉を使って数量の関係を明確にし、南川副小型授業を通して、筋道を立てて考える力を育成する授業を実践していきます。また、相手にわかりやすく伝えたり、友達の意見を聞いてよりよい解決方法を追求したりする授業を継続していきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通してください。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことを生活の中で使うと便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせるのが一番です。生活場面で算数を使ってみてください。

5 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣・規範意識について》 (「している」「どちらかといえば」の合計値)

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	85.7	95.3
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.1	81.4
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	78.6	91.6
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校の出来事について話をしますか	39.3	50.1
学校のきまりを守っていますか。	96.4	92.1
人が困っているときは、進んで助けていますか。	96.4	87.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	85.7	85.0

朝食・就寝・起床についてはおおむね全国平均ですが、一部の児童で「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムができていないと思われます。

規範意識については、全国平均よりも良好な結果が出ており、肯定的な回答をした児童が多くいました。全体的に落ち着いた学校生活を送れていることと結びついています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で計画を立てて勉強をしていますか。(どちらかといえばしているも含む)	71.4	71.5
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。		
「2時間以上」	21.5	29.3
「1時間以上、2時間より少ない」	60.7	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	14.3	24.1
「30分より少ない」	0.0	7.6
「全くしない」	1.0	2.3

家庭学習については2時間以上している児童は全国平均より低いものの、1時間以上している児童は、昨年よりさらに増えて82.2%で全国平均を上回っています。

「家庭学習がんばろう週間」の取組を通して家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように家庭との連携を図ります。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学习(自学)についても上学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着しつつあります。
- 今年度も、朝の読書タイムや図書室の貸出50冊・100冊の表彰、低学年での読書ボランティアによる読み聞かせなど、読書の機会を増やし、読書の習慣化に向けた取組を進めています。
- 学校でも家庭でももっと子供たちを認め、褒めていくことが必要です。結果ではなくその過程で「できたことを褒めていく」ようにすることで学習意欲や自主性も喚起できると考えます。

【ご家庭では】

- 生活習慣の定着については、「生活振り返りカード」を学期初めに実施しています。普段から規則正しい生活と家庭学習の定着に向けて家庭でもご協力をお願いします。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したことを逃さず、褒めることで意識が更に高まると思います。
- 家庭学習については「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学习の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。また、「家庭学習がんばろう週間」の取組の結果と考察を毎学期配布しております。ご家庭で取り組んで欲しいことを掲載しています。